

岡山県感染症週報 2022年第36週 (9月5日～9月11日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

9月24日～30日は「結核予防週間」です。

【お知らせ】次週、2022年第37週(9/12～9/18)の感染症週報は、2022年9月26日(月)にホームページへ掲載いたします。

◆2022年 第36週(9/5～9/11)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第34週	5類感染症	後天性免疫不全症候群	1名(30代 男)
第35週	2類感染症	結核	3名(乳児 男 1名、40代 女 1名、80代 男 1名)
	5類感染症	梅毒	1名(50代 男)
第36週	2類感染症	結核	3名(60代 女 1名、70代 男 1名、90代 女 1名)
	4類感染症	日本紅斑熱	1名(70代 男)
		レジオネラ症	1名(60代 男)
	5類感染症	梅毒	8名(20代 男 4名・女 2名、50代 男 1名、60代 男 1名)
	新型インフル エンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	13,309名

0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
2,382	2,400	1,512	1,987	2,067	1,165	754	524	328	190

ソーシャルディスタンス
・マスク・手洗い・換気!
熱中症にも注意!



©岡山県「ももっちと仲間たち」

【第37週 速報】

○新型コロナウイルス感染症 4,152名の発生がありました(9月12日～14日)。

ワクチン接種も
大切!



©岡山県「ももっち」

1. **新型コロナウイルス感染症**は、2022年第36週に13,309名の報告があり(第35週は17,171名)、県内での2020年からの累計報告数は255,045名となっています。詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
2. **日本紅斑熱**は、2022年第36週に1名の報告があり、2022年の累計報告数は6名となりました(2021年の同時期:4名)。この感染症は、病原体(日本紅斑熱リケッチア)を保有するマダニに刺咬されることで感染します。ダニに刺咬されないための予防対策等については**コラム**「ダニが媒介する感染症に注意しましょう!」をご覧ください。
3. **梅毒**は、2022年第36週に8名の報告があり、2022年の累計報告数は134名となりました(2021年の同時期:99名)。全国の発生状況は第35週までの累計報告数が8,155名(2022年9月7日時点)となり、1999年の感染症法施行以降で最大の年間報告数となった2021年の7,978名を超えました。全国的にこれまでにない勢いで報告数の増加が見られており、注意が必要な状況です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『**梅毒について**』をご覧ください。
4. **RSウイルス感染症**は、県全体で73名の報告があり、前週とほぼ同数でした(定点あたり1.28→1.35人)。地域別では、岡山市(2.14人)、備中地域(1.71人)、倉敷市(1.55人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳幼児が感染すると重症化し、肺炎等を起こすおそれがあります。有効なワクチンはなく、症状に応じた対症療法が行われます。今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★	RSウイルス感染症	▶	★★
咽頭結膜熱	▶	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▲	★
感染性胃腸炎	▶	★	水痘	▶	★
手足口病	▶	★	伝染性紅斑	▼	
突発性発疹	▶	★	ヘルパンギーナ	▶	★
流行性耳下腺炎	▲	★	急性出血性結膜炎	▶	
流行性角結膜炎	▶	★	細菌性髄膜炎	▶	
無菌性髄膜炎	▶		マイコプラズマ肺炎	▶	
クラミジア肺炎	▶		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▶	

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▶：増加 ◀：ほぼ増減なし ▼：減少 ▼：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。(発生数が多いことを示すものではありません。)
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

【発熱や風邪のときは「かかりつけ医」等にご相談を！】

新型コロナウイルス感染症は、発熱や咳などで始まることが多く、一般的な風邪や、インフルエンザと初期症状が似ています。
 こうした症状がある場合は、無理をして学校や職場等に行かないようにして、「発熱外来」で相談・診療・検査をしてもらいましょう。
 なお、医療機関を受診する際は、必ず事前に電話予約をし、受診時はマスクを着用してください。
 詳細は、岡山県ホームページ → [新型コロナウイルス感染症に関するコールセンター](#)

＊子どもの予防接種を確実に！＊



厚生労働省リーフレットより

新型コロナウイルス感染症の流行による影響から、子どもの定期予防接種率の低下が懸念されています。
接種期間内の方は、早めに予防接種を済ませましょう。
 予防接種に関する疑問点などは、お住まいの市町村にお問い合わせください。

[遅らせないで！子どもの予防接種と乳幼児健診（厚生労働省）](#)
[予防接種スケジュール（国立感染症研究所）](#)

今週の注目感染症

★新型コロナウイルス感染症

●新型コロナウイルス感染症とは

新型コロナウイルス感染症は、世界中で感染が拡大している呼吸器症状などを呈する感染症です。咳やくしゃみ、会話などの際に排出される、ウイルスを含んだ飛沫・エアロゾル（飛沫より更に小さな水分を含んだ状態の粒子）を吸入することで感染すると考えられます。通常は感染者に近い距離（1m以内）で感染しますが、エアロゾルは1mを超えて空気中に留まりうることから、換気不十分な環境では、感染が拡大するリスクがあります。予防接種が進められており、9月13日時点で全人口の80.4%が2回、65.1%が3回のワクチン接種を完了しています。また、60歳以上の高齢者や18歳以上で基礎疾患を有する方等で3回目接種から5か月以上経過した方への4回目の追加予防接種が進められています（該当高齢者の約8割で接種が完了しています）。さらに、オミクロン株対応2価ワクチン（従来株とオミクロン株に対応）が9月20日から順次接種開始予定です。

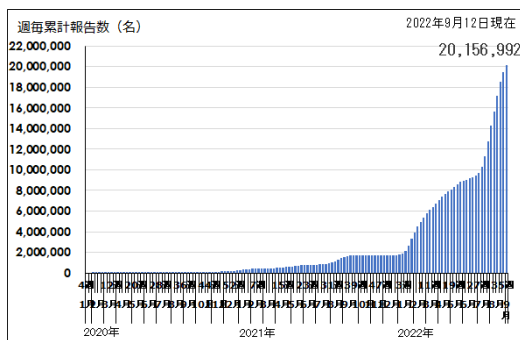
●症状

現在日本で流行の主流となっているオミクロン株は、潜伏期間が2～3日と、従来流行していた株（デルタ株など）と比較し短くなっています。また、上気道で増殖しやすい特性から、従来株に比べ、鼻汁・頭痛・倦怠感・咽頭痛などの風邪様症状の頻度が増加している一方で、嗅覚・味覚障害の頻度の減少が報告されています。しかしながら、肺炎が進展し、重症化する例も少なからず認められます。特に高齢者や基礎疾患（慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、肥満など）のある方がり患すると、重症化する割合が高い傾向にあるとされており、注意が必要です。また、妊婦では妊娠後半期（21週以降）などに重症化する割合が高いことが分かっていますが、ワクチン接種が重症化を予防する可能性があると考えられています（[日本におけるCOVID-19妊婦の現状（日本産婦人科学会、2022年6月7日付報告）](#)）。なお、り患後症状（いわゆる後遺症）については、こちらをご覧ください。→ [罹患後症状のマネジメント・第1.1版（2022年6月17日発行）](#)

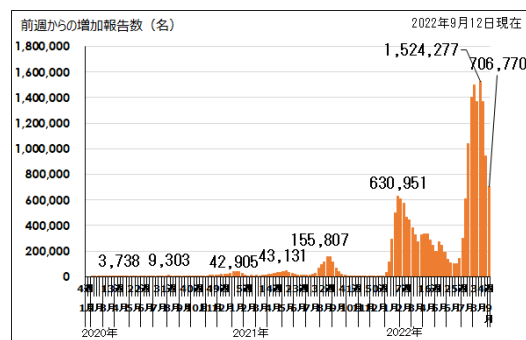
●発生状況

・全国

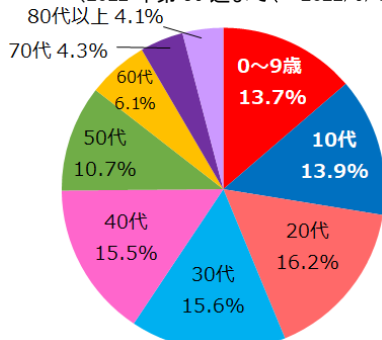
2022年9月14日0時現在まで、国内感染者は累計で20,300,387名、国内死亡者は42,985名、入院治療等を要する者は871,243名（うち重症者376名）となっています（厚生労働省ホームページより）。全国の新規感染者数は、全ての年代で減少が継続し、第6波のピークとほぼ同じレベルとなりました。しかし、一部地域では減少の鈍化がみられ、今後、夏休み後の学校再開や連休による感染状況への影響が注視されます。療養者数、重症者数は減少が継続し、死亡者数も減少に転じました。今後の見通しとして、季節性インフルエンザの例年よりも早期の流行と両感染症の同時流行が懸念されています。



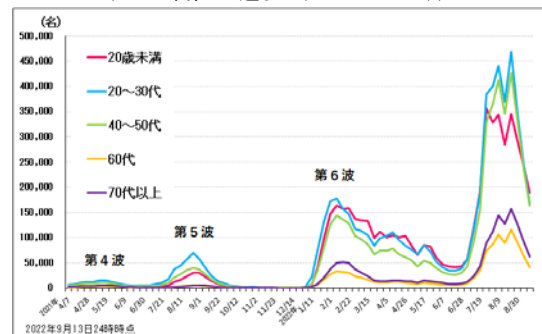
全国 週毎累計感染報告数 厚労省 HP より
(2022年 第36週まで(～2022/9/11))



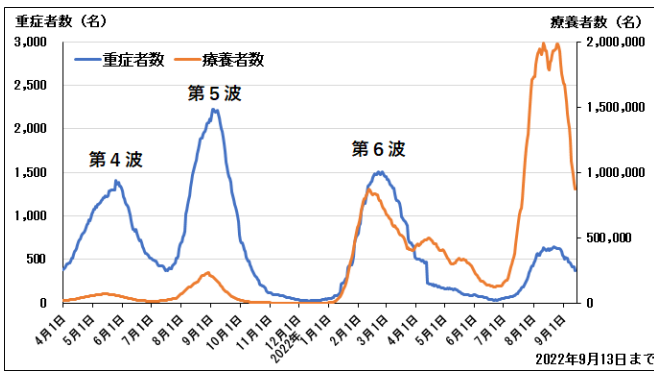
全国 週毎増加感染報告数 厚労省 HP より
(2022年 第36週まで(～2022/9/11))



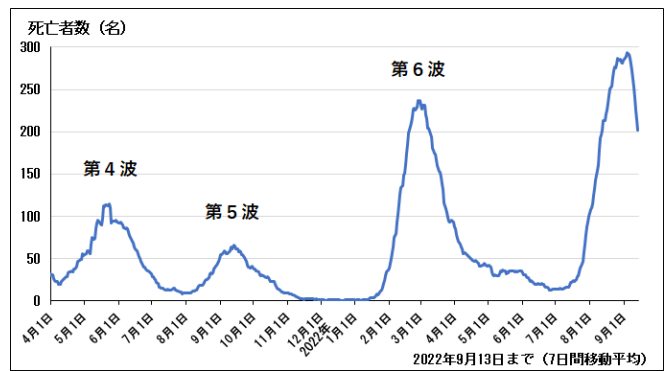
厚労省 HP より(2022年9月13日24時時点)
全国 年齢階級別累計割合



厚労省 HP より(2022年9月13日24時時点)
(2022年5月3日のデータは感染研 HP より独自集計)
全国 年齢階級別発生状況



全国 重症者数・療養者数の推移
(厚生労働省オープンデータより(2022年9月13日まで))



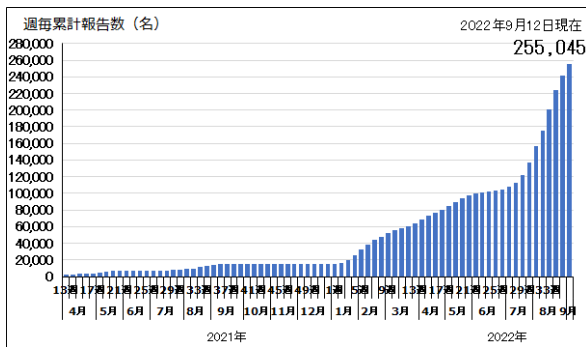
全国 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年9月13日まで))

・岡山県(最新情報)

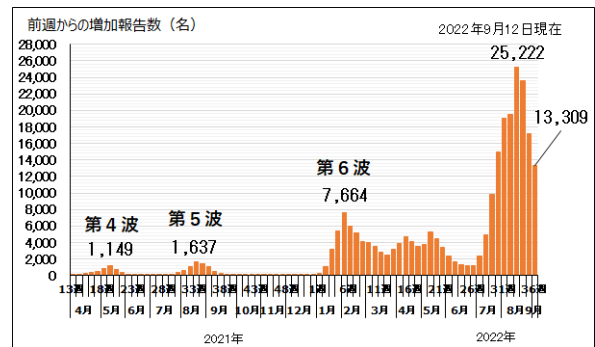
2022年9月15日0時現在まで、岡山県の感染者は累計で259,197名、死亡者は387名(9月8日~14日までの1週間で9名増加)となっています。高齢者施設・医療機関などでクラスターが発生しています。直近1週間の新規感染者数は、全国の状況と同様に全ての年代で減少が継続していますが、高いレベルが継続しています。岡山県は病床使用率が50%を超えたこと等を受け、8月5日に「[BA.5対策強化宣言](#)」を発令しました。ワクチン接種とともに、基本的な感染予防策(3密(密閉・密集・密接)の回避、マスクの正しい着用、手洗い、換気など)の徹底に留意しましょう。また、高齢者や基礎疾患があるなど重症化リスクの高い方や日常的にそれらの方と接する方は、混雑した場所への外出など感染リスクの高い行動を控える、体調が悪い場合には外出を控える等、日々の活動面にも留意しましょう。

2022年 第37週 速報 4,152名 年齢階級別発生状況一覧表

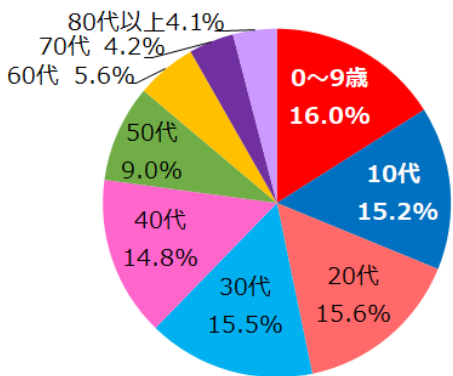
0-9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	年代非公表
793	768	455	629	642	362	211	145	91	55	1



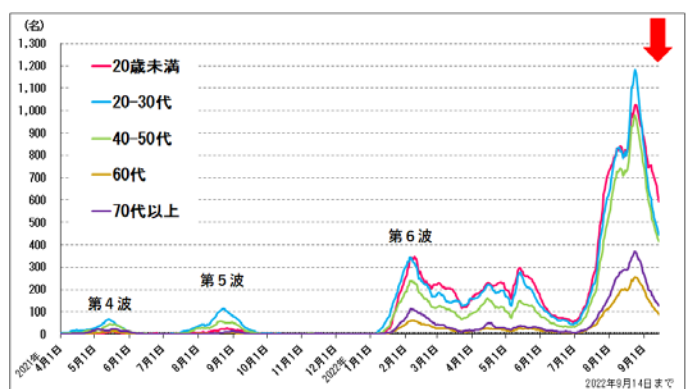
岡山県 週毎累計感染報告数 (第36週まで)



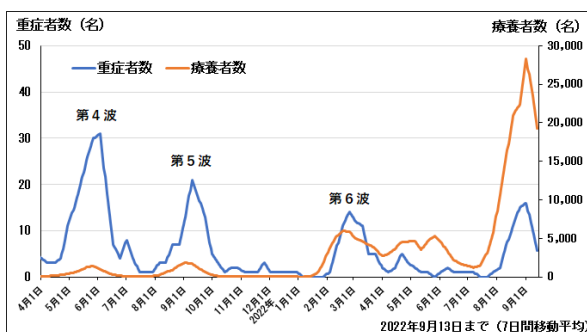
岡山県 週毎増加感染報告数 (第36週まで)



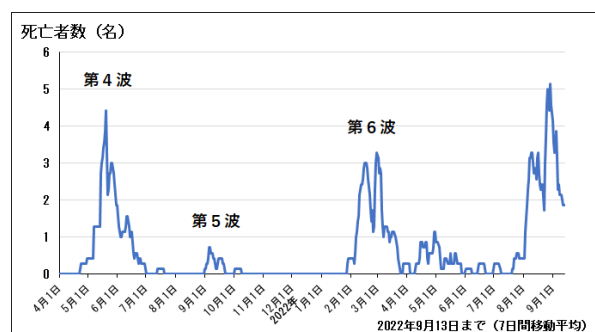
岡山県 年齢階級別累計割合(9月14日まで)



岡山県 年齢階級別発生状況(7日間移動平均、9月14日まで)



岡山県 重症者数・療養者数の推移(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年9月13日まで))



岡山県 死亡者数(7日間移動平均)
(厚生労働省オープンデータより(2022年9月13日まで))

9月24日～30日は『結核予防週間』です。

～ 私が結核？って思いました。

早く分かったので、今はこうして笑っていられます。(結核予防週間標語) ～

結核は過去の病気ではありません。日本では今でも年間 **10,000名以上**の新しい患者が報告され、**約 2,000名が命を落としている** 重大な感染症です。結核患者の多くが高齢者で、新たに結核患者として登録される方のうち **70歳以上の方の割合が約 6割**に上っていますが、若年層(特に 20代)で外国生まれの患者の登録が多いことが注目されます。

毎年 **9月24日～30日**は「**結核予防週間**」です。今一度、この機会に結核について理解を深めましょう。岡山県では、各保健所での啓発や相談など各種活動に取り組んでいます。

結核についてのご相談は、管轄の保健所へ → [岡山県保健所管轄区域案内 \(厚生労働省\)](#)

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか？



- ✓ 痰のからむ咳が **2週間以上**続いている。
- ✓ 微熱・身体のだるさが **2週間以上**続いている。



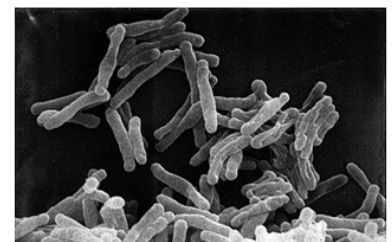
このような症状が続いたら、**結核**かもしれません。
早めに医療機関を受診し、**いつもの風邪と違うところ**を医師に伝えましょう。

注) 高齢者の方は典型的な症状が出ない場合もあります。定期的な健診が重要です。

[「結核 \(BCG ワクチン\)」 \(厚生労働省\)](#)

【結核とは】

結核菌が体の中に入ることによって起こる感染症です。患者のくしゃみや咳の際に、体外に排出された結核菌が空気中に長時間漂い、それを周りの人が吸い込むことによって感染します(飛沫核感染: 空気感染の一種)。感染してもほとんどの場合は免疫で抑えられますが、吸い込んだ結核菌の量が多かったり、免疫が低下している場合は発病することがあります。多くの場合、肺結核として発症し、咳、痰、微熱が典型的な症状です。胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振などを伴うこともあります。初期には無症状のこともあります。肺以外のリンパ節、腎臓、骨、腸、脳など様々な臓器に病巣を作ることがあります。



結核菌の電子顕微鏡写真: 公益財団法人結核予防会結核研究所疫学情報センターホームページより

【結核の予防接種や健診を受けましょう】

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると重症化しやすいため、予防接種を行うことが重要です。生後 1 歳までには、必ず BCG ワクチンを接種するようにしましょう。

(予防接種については、お住まいの市町村にお問い合わせください。)

また、結核の早期発見のため、職場や地域の健康診断を積極的に活用し、1年に1回は健診を受けましょう。

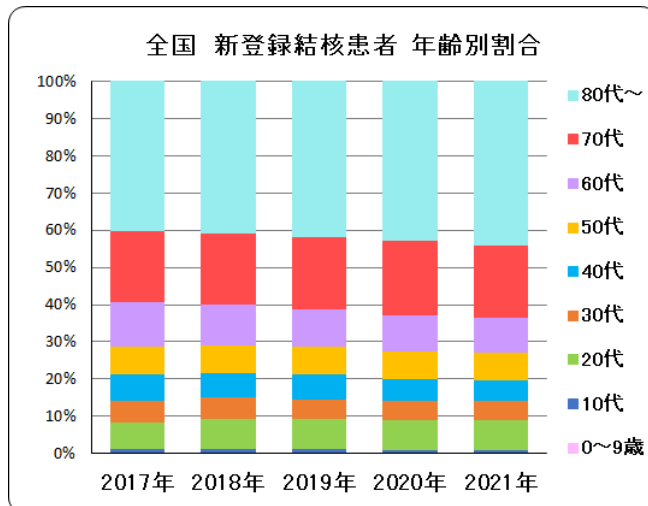
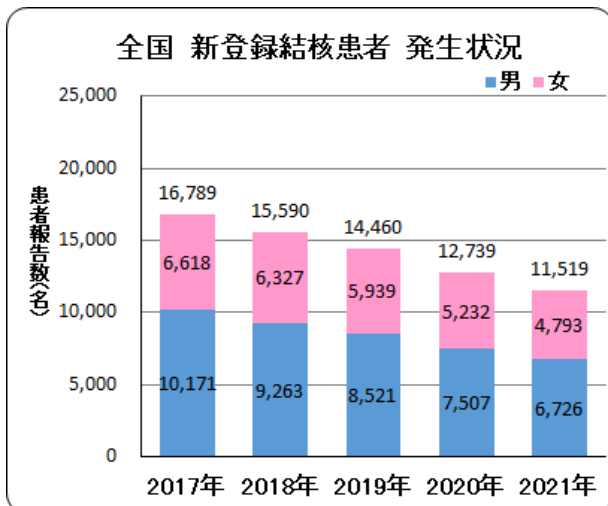
<一般向け> [結核とは? \(公益財団法人 結核予防会 結核研究所\)](#)

<医療従事者向け> [結核医療相談・技術支援センターを開設しています! \(岡山県 健康推進課\)](#)

結核について

【2021年の全国の結核発生状況】

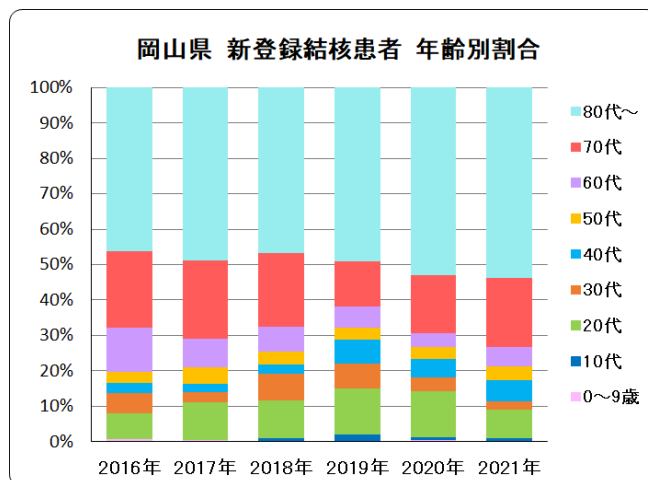
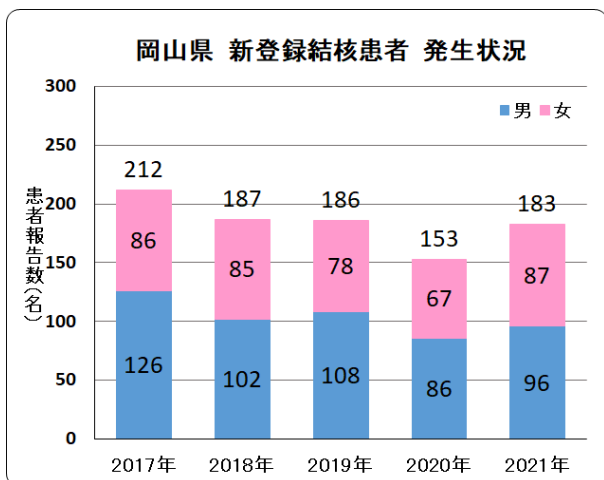
[結核登録者情報調査年報](#)によると、全国で新たに登録された結核患者（新登録結核患者）は11,519名で、2020年の12,739名から減少しました。年齢別では、70歳以上の新登録結核患者が全体の60%以上を占めており、患者が年々高齢化しています。日本は、2021年の結核り患率（人口10万あたり）が9.2と、前年から0.9ポイント減少し、前年の中まん延国から低まん延国（10以下）となりました（なお、結核り患率の減少は、新型コロナウイルス感染症の影響も考えられています。）。都道府県別のり患率は、長崎県（13.5）が最も高く、次いで大阪府（13.3）、徳島県（12.9）の順となっています。



【岡山県の発生状況】

2022年第36週まで（～9/11）の岡山県の報告数は175名（患者100名、無症状病原体保有者74名、疑似症患者1名）となっています。2021年の岡山県の新登録結核患者は183名で、2020年の153名から増加しました。年齢別では80歳以上が最も多くなっており、70歳以上の高齢者が新登録結核患者の73%を占めています。

岡山県のり患率は9.8と、2020年の8.1から1.7ポイント増加し、新型コロナウイルス感染症流行前の2018年の9.9、2019年の9.8と同レベルでした。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響による受診抑制などが、り患率減少の一要因と考えられていますが、2021年は増加に転じており、引き続き注意が必要な状況です。



ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られており、これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)*、日本紅斑熱、つがが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものがあります。

ダニは、春から秋(3月～11月)にかけて活発に活動します。

野外で作業する際は、肌の露出を少なくし、こまめに虫除け剤(ディートやイカリジンを含む)を噴霧するなどし、ダニに刺咬されないようにしましょう。また、野外での作業後は、シャワーや入浴を行い、ダニが付いていないかチェックをしましょう。

※SFTSはSFTSウイルスに感染したイヌやネコからの感染も報告されています。
体調不良の動物や野生動物との接触は避けましょう。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関するQ&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [ツツガムシ病とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



吸血後の
フタゲチマダニ♀



ヤマアラシチマダニ

岡山県環境保健センター
ウイルス科 画像

◆◆◆ 食中毒予防の3原則 ◆◆◆

岡山県は腸管出血性大腸菌感染症注意報発令中です！

➤ 「清潔」(菌をつけない)

- ・調理前、食事前、トイレ後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
- ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄・消毒を行いましょう。
- ・焼肉をする時は、生の肉をつかむはしと食べるはしを使い分けましょう。

➤ 「迅速・冷却」(菌を増やさない)

- ・生鮮食品や調理後の食品は、できるだけ早く食べましょう。
- ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
(生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。)

➤ 「加熱」(菌をやっつける)

- ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
- ・特に、食肉は中心部の色が完全に変わるまで十分に火を通し、生食は避けましょう(腸管出血性大腸菌は、75℃、1分間以上の加熱で死滅します)。



0157の電子顕微鏡画像
(国立感染症研究所)

[食中毒予防の3原則 \(岡山県生活衛生課\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省\)](#)

[家庭でできる食中毒予防の6つのポイント \(厚生労働省作成チラシ\)](#)

風しんの抗体検査(無料)を受けましょう!

<妊娠を希望する女性や同居する家族の方>

岡山県・岡山市・倉敷市では、先天性風しん症候群(CRS)*の予防を目的として、**風しんの無料抗体検査**を実施しています。
県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。検査の詳細は、下記のホームページ

岡山市・倉敷市以外 → [風しんの無料抗体検査が受けられます \(岡山県健康推進課\)](#)

岡山市 → [風しんの無料抗体検査](#)

倉敷市 → [風しん抗体検査について](#)

をご覧ください。

<1962(昭和37)年4月2日から1979(昭和54)年4月1日までに生まれた男性>

風しんの抗体保有率が低い1962年4月2日から1979年4月1日までに生まれた男性に対して、まずは**無料で抗体検査**を受け、**抗体価が低い場合は風しんの予防接種を無料で受けることができる**制度が、実施されています(2025年3月31日まで)。以下の医療機関で、無料の抗体検査が受けられます。

[市町村から届いたクーポン券を使用できる岡山県内の医療機関リスト](#)

※妊娠初期に風しんに罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状です。

3年間延長
されます!

岡山県の2019年4月~2022年5月の風しんのクーポン使用実績(抗体検査)は、32.4%(4月までは31.9%)と未だに低い状況です!
CRSを防ぐためにも、必要な方は確実に予防接種を受けましょう!

[風しんの追加的対策について \(厚生労働省\)](#)
[風疹に関する疫学情報 \(国立感染症研究所\)](#)
[“風疹ゼロ”プロジェクト \(日本産婦人科医会\)](#)



© 岡山県「ももっち・うらっち」

保健所別報告患者数 2022年 36週(定点把握)

(2022/09/05～2022/09/11)

2022年9月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	73	1.35	30	2.14	17	1.55	5	0.50	12	1.71	1	0.25	2	1.00	6	1.00
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	136	2.52	39	2.79	17	1.55	47	4.70	3	0.43	11	2.75	1	0.50	18	3.00
水痘	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	44	0.81	30	2.14	3	0.27	5	0.50	3	0.43	2	0.50	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	11	0.79	5	0.45	-	-	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
ヘルパンギーナ	9	0.17	2	0.14	1	0.09	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2022年 36週(発生レベル設定疾患)

(2022/09/05～2022/09/11)

2022年9月15日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	3	0.06	2	0.14	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎	136	2.52	39	2.79	17	1.55	47	4.70	3	0.43	11	2.75	1	0.50	18	3.00
水痘	3	0.06	1	0.07	1	0.09	-	-	1	0.14	-	-	-	-	-	-
手足口病	44	0.81	30	2.14	3	0.27	5	0.50	3	0.43	2	0.50	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	0.17	2	0.14	1	0.09	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	2	0.33
流行性耳下腺炎	1	0.02	1	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	1	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2022年 第36週 2022/09/05～2022/09/11)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	73	11	14	24	12	11	1	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	3	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎	136	1	10	21	10	14	12	8	8	7	3	2	17	2	21
水痘	3	-	-	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	
手足口病	44	-	1	22	13	3	1	2	-	-	1	-	1	-	
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発疹	19	-	8	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	9	1	-	3	1	1	2	-	-	1	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

2022 年 36 週

分類	疾病名	2022		2021	疾病名	2022		2021	疾病名	2022		2021
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	175	250	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	46	82
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	2	2	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	-
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	1	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	3	6
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	1	4
	デング熱	-	-	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本紅斑熱	1	6	9	日本脳炎	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	1	-
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	1	25	57
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	9	14	ウイルス性肝炎	-	1	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	-	12
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)		-	-	1	急性脳炎	-	5	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	4	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	4	後天性免疫不全症候群	-	4	13
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	-	-	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-
侵襲性肺炎球菌感染症		-	17	17	水痘(入院例に限る。)	-	2	9	先天性風しん症候群	-	-	1
梅毒		8	134	160	播種性クリプトコックス症	-	3	1	破傷風	-	2	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	-	百日咳	-	13	15
風しん		-	-	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-
※	新型コロナウイルス感染症	13,309	239,485	14,120		-	-	-		-	-	-

※新型インフルエンザ等感染症

